

# アジア平和貢献センター共催シンポジウム

## —日本はアジアや世界の中でどう生きるか

### 基調報告1

日本、中国、韓国の科  
学技術の国際競争力

学校法人根津育英会武蔵学園  
学園長

ありま ありま  
有馬 朗人



### 基調報告3

日本の平和国家として  
のあり方

アジア平和貢献センター理事長

にしはら はるお  
西原 春夫



### 基調報告2

グローバル化の中のア  
ジアと日本

—文化力の時代を迎えて

国立新美術館館長

あおき たかお  
青木 保



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日はアジア平和貢献センターとの共催で、例会を兼ねましてシンポジウムを開かせていただくということになっております。ただ、本日はたいへん雪が降っております、何人かの会員の方からは「本当にやるのか」というお話もいただいたほどで、毎週の講演会に比べますとたいへん人数が少なく残念でございますが、予定どおりやらせていただくということになりました。本日はそういうちょっと残念な状況でございますが、メンバーは最上級の方に集まっていたいております、文化、科学技術、あるいは政治経済と、いろいろな観点から、まず最初にお三方からご講演をいただきます。30分ずつということでたいへん短いのでござい

ますが、ポイントをお話しいただき、それから休憩を挟んで討論をしていただくということになっております。

時間でございますので早速本題に入らせていただきます。最初は、元東大総長で文部大臣をされた有馬先生のほうから、日本の国際的な技術の力というものについてお話をいただきたいと思っております。各先生のご経歴等につきましては、お配りしたものに書いてございますのでごらんいただきたいと思います。

それでは早速ですが、有馬先生よろしくお願いたします。（拍手）

有馬 皆さんこんにちは。有馬朗人でございます。

今日は、アジア平和貢献センター並びに経済